

令和2年度事業報告

公益社団法人日本馬術連盟（日馬連またはJEF）は、令和2年3月5日開催の令和元年度第7回定例理事会において承認された令和2年度の事業計画および収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

令和2年度の特記事項として、令和2年2月に国内で感染が確認された新型コロナウイルス感染症拡大のため、4月第2週以降6月末日まで日本馬術連盟公認競技会を中止した（7月1日に再開した）。また、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、「競技会における新型コロナ感染拡大予防ガイドライン」を策定し対策を徹底した。2020東京大会のための選手の強化訓練（JOC選手強化NF事業）は障害馬術、総合馬術（第1期、第2期）、馬場馬術も新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。第75回国民体育大会（鹿児島）も2023年に延期になった。また海外においても、ほとんどの国際大会（障害・馬場・総合共に）が中止になり、海外強化訓練にも支障をきたした。なお主催大会では、全日本ヤング総合馬術大会、全日本馬場馬術大会 Part II、全日本エンデュランス馬術大会は中止した（令和2年度日本馬術連盟表彰式も中止）。

主催大会である全日本馬場馬術大会 Part I、全日本障害馬術大会 Part I、全日本ジュニア馬場馬術大会をオリンピック会場となるJRA馬事公苑で開催した。

各事業については、以下のとおり

1. 馬術の普及・振興

（1）馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイトおよびSNSを運営し、広く一般に各種情報を公開して迅速に広報した。
- ② 会員とのコミュニケーション手段としてウェブサイト・Facebookを活用するとともに月刊機関誌『馬術情報』とリンクし、広報活動の充実を図った。
- ③ 利用者の利便性と業務の円滑化を向上させるべく「日馬連情報システム」を活用し、会員情報、乗馬情報、主催・公認大会の情報等を管理した。

（2）機関誌発行

- ① 紙媒体の特性を生かして情報を的確に伝達し、馬術の振興および各種記録の保存に資するため『馬術情報』を刊行した。
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、一般購読者に販売した。93,600部（7,800部×12か月）

(3) 馬術関係資料の作成・配布

各種規程集および日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。

(4) マーケティング活動

- ① JEF スポンサーとして、オフィシャルパートナー2社（株式会社 LIXIL・株式会社 AOKI）、オフィシャルサポーター4社（日本航空株式会社・エルメスジャパン株式会社・セガサミーホールディングス株式会社・株式会社ベネフィット・ワン）、オフィシャルサプライヤー1社（デサントジャパン株式会社）、サポーターメンバー1社（株式会社フロンティアインターナショナル）が就任した。
- ② パートナーシッププログラムメニューを適切に実施し、それ以外のスポンサーメリットやエルメスオリジナル・スポンサーメニューも実施した。
- ③ 馬術スペシャルアンバサダー（櫻坂 46 キャプテン 菅井友香）、馬術アンバサダーライダー（小牧加矢太、高田茉莉亜、佐々紫苑）、馬術応援団（おがわじゅり、横山剣、佐藤藍子）を継続起用した。
- ④ 馬術競技振興イベントとして「メディアのための馬術講座」(JRA 馬事公苑 菅井友香出演) を開催した。

(5) 主催競技会の放映・動画配信

- ① NHK における主催競技会のテレビ放映実施に協力した。(Eテレ 1回)。
- ② 主催競技会等の模様をインターネットでライブ配信を 14 回(他団体主催 7 回を含む) 実施し、多くの人々に馬術の素晴らしさを伝達した。

(6) 各種表彰

- ① 永年に亘り馬術界に功績のあった 5 名(功労者 1 名、地域功労者 4 名) 7 頭を表彰した。また、優秀な成績を収めた人馬 3 名 6 頭を表彰した。
- ② 海外で特に活躍した選手を対象として、日本馬術連盟会長特別表彰として、大岩義明選手を表彰した。
- ③ 競技馬の資質向上のための奨励策として、優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
- ④ 競技馬の資源確保、調教技術向上のため内国産馬の活用振興を図り、その奨励策として内国産優秀乗馬飼育奨励金を交付した。
- ⑤ 優秀な成績を収めた内国産馬の所有者・生産者を表彰した。

(7) NF 活動(National Federation: 国内を統括するスポーツ団体)の推進

- ① (公財)日本オリンピック委員会および(公財)日本スポーツ協会の会議等に積極的に参加した(20回)。
- ② 国際馬術連盟(FEI)およびアジア馬術連盟(AEF)の活動に参画し(国際会議等2回)、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。
- ③ ガバナンスコードへの対応は、日本馬術連盟 2021~2025 中期計画および日本

馬術連盟利益相反ポリシーを策定し、ガバナンスコードの遵守状況を日本馬術連盟公式サイトに掲出した。また、そのことについて（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本オリンピック委員会に報告した。

（８）馬術基盤の維持拡大

- ① 馬術振興の一翼を担う組成団体に対し、その加盟する団体が所有する馬について、飼育費助成および優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟および組成団体の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。
- ③ 新型コロナウイルス感染症拡大のため翌年に延期となったアーヘン国際馬術大会及びハーゲン国際馬術大会のジャパンイヤーイベントの企画に引き続き参画した。
- ④ 国内の乗用馬生産団体に対して必要な助言を行うとともに、内国産馬限定競技を主催大会に組み入れ内国産馬活用促進のための事業を行った（第72回全日本障害馬術大会2020PartⅡ内国産障害飛越競技・第72回全日本馬場馬術大会2020PartⅠ内国産セントジョージ賞典）。
- ⑤ JRA馬事公苑整備工事期間中に安定的に各種大会が開催されるよう「各種馬術競技会開催等支援事業」を7主催者17競技大会について支援を行った（内8競技大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）。併せて、従前同様競技会への参加活動が行えるよう、関東学生馬術協会加盟馬術部への活動支援を行った。また、馬の多様な利活用に取り組む全国の大学馬術部を対象に、活動支援を行った（JRA特別振興資金事業）。
- ⑥ 選手および関係者のインテグリティ（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に関する意識向上促進のため、JOCセミナーに11回29名が参加した。

2. 会員と乗馬の登録

（１）会員登録

選手、指導者及び団体の活動をサポートするため、会員（6,651：個人6,011、県馬連所属団体387、組成団体所属団体253）の登録を行った。

（２）乗馬登録

乗馬の個体情報（識別、成績、所有者）を登録管理して、競技の公正確保と防疫体制の確立を図り、乗馬（3,822）の登録を行った。

（３）FEI登録事務

FEI公認競技会に参加する人馬（選手99名、馬匹136頭）及び競技役員のFEI登録事務を行った。

（４）登録事務の合理化

「日馬連情報システム」を更に活用し、登録事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定及び各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

JEFの各種規程の制定および改廃を行った。またFEI各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI競技規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 競技役員の資格認定・更新・昇格および技術向上のため講習会・認定試験を実施（8回）するとともに都道府県等が開催する講習会を公認（7回）した。また、コースデザイナー講習会（3回）を実施した。
- ② 国際競技役員を養成するため、FEI公認の講習会・研修会や、海外で開催される講習会に参加する競技役員の支援は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。

(3) 指導者資格

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者

（公財）日本スポーツ協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムに則り、馬術に特化したコーチ3・コーチ1を日馬連が養成し、資格の認定を行った（2回）。

② 日本馬術連盟認定指導員

馬術指導者の資格認定・更新ならびに専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムに則って講習を行い、検定試験を実施して資格を付与した（1回）。

(4) 選手の資格認定

騎乗者資格について、主催・公認競技会および国際競技会参加のための騎乗者の技術レベルを判定し、認定・登録を行った（A級15名、B級249名、EC級2名、C級57名）。また、都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための審査会（B級22回、C級23回）を規程に基づいて公認した。

(5) 競技会の公認

会員が主催する競技会を日馬連が公認し、併せて日馬連が指名する者が審判長を担当することにより、競技の安全と公正を推進した（障害71、馬場53、総合6、エンデュランス5：合計135）。また、公認競技会のオンライン申請の試行を3月から開始した。

4. 選手の強化

(1) 東京2020大会に向けた馬術競技強化対策事業（JRA特別振興資金事業）

- ① 強化体制の整備として、昨年度に引き続きドイツ（馬場は7月まで）およびフランス（総合）に設置したJEF海外トレーニング拠点3か所を運用した。ま

た、ジェネラルマネージャー、シニアマネージャー等の海外コーチングチームを設置した。

- ② 海外競技活動支援としてナショナルチームメンバー18名（障害10名・馬場4名・総合4名）に活動補助費を交付した。
- ③ 優良競技馬による競技活動支援を目的に障害9頭、総合6頭を障害および総合のナショナルチームメンバーに引き続き貸与した。また、総合馬術の育成選手（根岸 淳）への支援として訓練馬3頭を引き続きローラン・ブスケ厩舎で繋養した。

(2) ジュニア育成

国際レベルの選手を育成するため、ジュニア層の発掘および強化に努め、海外の競技会・講習会等に選手を派遣する予定（総合3回、障害2回、馬場1回）にしていたが、すべて新型コロナウイルス感染症対策の渡航制限により実施できなかった。

(3) ナショナルトレーニングセンター（NTC）の活用

- ① ナショナルトレーニングセンター中核拠点施設馬術競技強化拠点としてスポーツ庁の指定を受けた御殿場市馬術・スポーツセンターを競技力強化に活用した（15回67日）。
- ② 医科学サポートに関わるデータ収集として、「騎乗中における選手の心拍数の測定」を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

馬術競技を志す全ての選手の目標として、各種目・各レベルの年度チャンピオンを決定する以下の全日本馬術大会を開催（全日本ヤング総合、全日本馬場Part II、全日本エンデュランスについては新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）した。

日程	大会名	開催場所
5月29～31日	第41回全日本ヤング総合馬術大会2020 (中止)	山梨県馬術競技場
7月4～5日	第72回全日本馬場馬術大会2020 Part II (中止)	御殿場市馬術・スポーツセンター
9月12～13日	第41回全日本ジュニア総合馬術大会2020	山梨県馬術競技場
9月21～22日	第44回全日本ジュニア障害馬術大会2020	山梨県馬術競技場
9月20～21日	第21回全日本エンデュランス馬術大会2020 (中止)	北海道鹿追町ライディングパークを発着とする特設コース

10月24～25日	第50回全日本総合馬術大会2020	三木ホースランドパーク
11月6～8日	第72回全日本馬場馬術大会2020 Part I	JRA馬事公苑
11月13～15日	第72回全日本障害馬術大会2020 Part I	JRA馬事公苑
11月21～22日	第37回全日本ジュニア馬場馬術大会2020	JRA馬事公苑
12月26～27日	第72回全日本障害馬術大会2020 Part II	三木ホースランドパーク

また、全国で開催される公認競技会を全日本大会の予選とすることにより全国規模の馬術の振興を図った。

更に、会員増加策の一環として、主催大会において実施する競技種目拡大の検討を行った。

(2) 競技会の共催

全国レベルでの技能向上の機会である第75回国民体育大会馬術競技(鹿児島県)は(公財)日本スポーツ協会および文部科学省他の団体とともに主催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期になった。

(3) FEI公認競技会

- ① 主要国際大会出場資格取得ならびに国際レベルの選手層の拡大を目的として、FEI公認競技会(国際総合馬術大会)を4大会計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、2大会しか実施できなかった。(JRA特別振興資金事業)。
- ② 会員団体が主催するFEI公認競技会12大会(障害7・馬場/パラ1・エンデュランス4)の開催(内5回は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① ドーピング防止に関する講習会を3回実施し、馬のドーピング防止に努めた。
- ② 主催競技会およびFEI公認競技会において馬のドーピング検査を実施(5回)した。また、令和3年度から検査対象競技会を2競技拡大することを決定した。
- ③ (公財)日本アンチ・ドーピング機構と協力して、競技者のドーピング防止に関する知識を広めるとともに、9名に検査を実施し、全員陰性であった。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大防止

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「競技会における新型コロナ感染拡大予防ガイドライン」を策定・公表した。これにより各主催者が実施する各種競技会等において感染防止対策の徹底を図った。

6. 国際競技会への派遣

- (1) 国際競技大会等へ選手・役員を派遣（障害3）し競技力向上に努めるとともに、海外の情報収集を図り、併せて国際交流・親善を深めた。

※派遣大会

- ・ CSIO3* Praha（チェコ）
 - ・ CSI3*/CSIO3* Vejer de la Frontera（スペイン）
 - ・ CSI2*/CSI3*/CSI4* Vejer de la Frontera(Sunshine Tour)（スペイン）
- (2) 2021年CSI-Wワールドカップファイナルの出場権を得た高田潤選手の馬匹は既に欧州にいたため馬輸送補助は行わなかった（しかし大会は馬ヘルペス感染症拡大の影響により中止となった）。
 - (3) 海外のFEI公認競技会に参加する日本選手（障害13名・馬場5名・総合8名）を支援した。エンデュランスは令和2年度FEI競技会への派遣は無かった。

7. 東京2020大会の準備

- (1) 東京2020大会の開催準備について、FEI、JOC、東京2020組織委員会、JRA等と会議・打ち合わせ等を22回実施した。
- (2) 東京2020大会のNTO（ナショナル・テクニカル・オフィシャル）として、日本からリザーブも含め22名が東京2020組織委員会から指名された。なお、ITO（インターナショナル・テクニカル・オフィシャル）に日本から2名がFEIから指名された。

(資料4) 会員と乗馬の登録 (2 関連)

(1) 会員登録数

区 分	R2. 3. 31 (A)	入会	退会	R3. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,904	410	663	6,651	△ 253	96.34
イ. 個人	6,254	391	634	6,011	△ 243	96.11
ロ. 県馬連に所属する団体	394	7	14	387	△ 7	98.22
ハ. 組成団体に所属する団体	256	12	15	253	△ 3	98.83
全日本学生馬術連盟	79	0	1	78	△ 1	98.73
全日本高等学校馬術連盟	81	11	9	83	2	102.47
日本乗馬少年団連盟	62	1	5	58	△ 4	93.55
日本社会人団体馬術連盟	34	0	0	34	0	100.00
③ 賛助会員	1	1	0	2	1	-

(2) 乗馬登録数

区 分	R2. 3. 31 (A)	登録	抹消	R3. 3. 31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,973	425	576	3,822	△ 151	96.20

(3) FEI登録数

区 分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	58	71	
馬場馬術	13	21	
総合馬術	22	39	
エンデュランス	1	0	0
軽乗	0	0	
パラ馬術	5	5	
レイニング	0	0	
合 計	99	136	0

(4) FEIパスポート登録数

FEIパスポート (リコグニションカードを含む) 交付・更新・変更数

新規交付	5
更 新	5
変 更	5
再発行	0

(うちマイクロチップ埋込み 0件)